

# 広報 まっだい

昭和43年8月25日発行  
 第124号  
 東頸城郡松代町公民館  
 館長 富沢清次  
 電話 松代6番  
 印刷 松代印刷所

## 備えはとよのつた!!

### 町に新型消防車来る

#### 消防施設強化される

七月三十一日に新鋭消防車が購入され、同時に可搬ポンプが、会沢及び菅刈の二部落に配置されて消防力はより一層強化されるに至った。町消防団の現有勢力は  
 自動車ポンプ 二台  
 手引動力ポンプ 十一台  
 可搬動力ポンプ 三十八台  
 となり、機械力の面では概ね充足されたものといえる。  
 これに伴って、消防水利の充実も着々と進められており、本年度防火水そう十ヶ所、消防水路（消火栓を含む）六ヶ所の工事が実施されている。  
 備えあれば憂なし、あとは人的消防力の強化が残された課題とい



えるが、これについても本年三月七日、全国消防大会が開催された際に優良消防団として、日本消防協会長から表彰旗を授与される榮譽に浴し、消防団員こそぞって、この名譽を汚さないよう、さらに精進することを誓っている。  
 尚防火水槽の十ヶ所は、池尻、太平、千年、田沢、清水、犬伏、下山、蒲生、室野、峠の各部落に整備されたものである。  
 又水路の完備を図ったものは、諏訪峠、儀明、竹所、蒲生、寺田の六ヶ所で今懸命の工事が進められている。

#### 青年の意気高らかに

～郡青年大会終る～

去る七月十四日、炎天上の松之山高校グラウンドにおいて、本年度の東頸城郡青年大会が華やかに挙行されました。  
 この日九時の開会を告げるブラスパンドのファンファーレに郡内約四百名の若人が堂々と入場し開会式にのぞみました。  
 九時半、いやが上にも盛上った意気をそのままに競技開始となるや、松代町の代表選手は全種目に参加、団長のもと力強きスタートをきり、兎角沈滞ぎみとされていた青年の力を存分に発揮し、最後まで目覚ましい活躍をみせました。特に陸上競技においては、終始浦川原村と得点をせり合い、最後まで優勝がわからない程の活躍で満場を湧かせました。

トラック種目、フィールド種目共に殆んど全種目に入賞、マラソンでは四名の出場者全員が二、三、六、七位(第十位までが入賞)という輝かしい奮戦振りでした。  
 又とかく弱いとされていた女子選手も大いにその力を発揮、低調であったフィールド競技にも、面目を一新し、大きな得点源となりました。  
 バレーボールは会場を松之山小学校に移し、強豪を相手に善戦しよく三位になるなどでしたが、本当に僅かの差の得点で総合優勝を逃し二位という結果でした。  
 選手陣は終始そのマナーの良さを示し、スポーツマンらしい行動は関係者を喜ばせ、今後の町内青年の力強さを示した一日でした。  
 尚大会後行なわれた県青年大会(八月二十五日柏崎にて)出場選手の選考会の結果、町内より晴れの三名が郡代表として選ばれました  
 男子百米 井上修平(寺田)  
 女子六十米 松山陽子(犬伏)  
 女子砲丸投 佐藤ミヨ(室野)

#### みんなで防ごう交通事故を

△歩行者も充分注意▽

夏場はとくに事故の多い季節です。又、最近車の数が増加いたしました。こんな時、お互いが交通事故を無くする様努力いたしました。よう。運転者は勿論のこと、歩行者も充分気をつける様にいたしましょう。  
 道の横断や停止している車の影から出る時、横列で道を歩くなどは兎角事故のおこりやすい事ですので、規則を守り、前後左右をたしかめて歩く様にいたしました。規則はたゞ車を運転する人だけが守るものではないはず。松代町から交通事故が一件もない様に、皆で努力いたしましょう

# 新しくなる小荒戸橋

—喜びに湧く地元民—

かねてより老朽をつたえられていた町内菅刈・小荒戸・池之畑線の小荒戸橋が、強い地域の要望と働きかけによって、新設することに決定、七月中旬入札も終り工事にとりかゝりました。

小荒戸橋は現在橋長二四米、市員三米の木造橋で、その架設は昭和六年でありました。現在の通行量及び車の大きさからして、市員三米は狭く且つ老朽のため危険性も考慮し、新設の線が出たもので今春に入札を行った結果、十日町市稲葉の丸山工務所に落札、請負代金四五八万円七月十九日工事に取りかゝったものです。

橋種は活荷重、合成桁で橋長は二九米、市員四米で、橋台の構造概要は鉄筋コンクリート逆T字型のもので、現橋より橋長、市員ともひろくなります。

この工事は二ケ年に渡りつゞけられるのですが、本年度分として左右橋台と左右袖工、取付道路の一部で橋の上部工は来年度施行

の予定です。  
この橋が完成すると小荒戸部落にも大型車が入ることが出来、米の出荷その他で大変便利になり、地元民の生活にも大いに関係がありますので、早くから希望の声が強かったものです。

## 事故に備えて、汗だくの実習

### 町内救急法講習会ひらく

暑さの一段とはげしい、七月二十八日(日曜)町内各学校PTA、婦人会を中心に奴奈川中学校において、町役場社会課主催の救急法講習会が開かれました。

この日の参加者は約四十名で、学校の先生方、PTAの人々が朝九時より高田市消防署職員で、日赤救急法指導員飯倉豊氏が来町、水難救助法、応急処置法を主として講習され、終日汗だくの実習が続きましました。

連日の様にマスコミに報ぜられる事故は、その救助法の必要を強く感じられる昨今です。この講習会は、単に水難のみでなく、火災時の場合、毒虫や蛇におかされた場合、交通事故の場合等、とかく夏場に多いこれ等の事に対して、医師の来るまでの応急の必要あるものを通り、その方法やら心構えやらを教えていただきました。

午前中は主として水難救助について、人工呼吸のやり方、おぼれた者の救助、タンカの作り方等が講習され、午後は講義に続いて一般事故の救助について三時過ぎまで熱心に受講が続けられました。又係りでは、受講者は何らかの機会をとらえて、地域で伝達されることを希望しているとのことでした。

尚応急処置はあくまで医師の来るまでのことですので、早急に医師への連絡が第一である事を繰り返して申しておられました。

田沢両部落民と子供たちで合同の歓迎運動会、フォークダンスや借り物競争に山川さん姉妹も参加して楽しい一日を送りました。そのあと部落の人たちと懇親会を開き地元感謝に山川さんはかえって恐縮しつつ、七日帰名しました。

この行為は関係者から高く評価され、山川さんのへき地の子供のために役立たせたいという考えに地元の人達は深い感謝を捧げています。

## 毎月菅刈分校へ

### 温い送金

#### 名古屋の一女性が三年間

名古屋の或る建設会社に勤務しながら、昭和四十一年から、自分の俸給の中から、僅かながら、へき地の子どもたちにと、毎月かさず送金を続けている娘さんがいます。

この人は山川泰代さんという二十三才の娘さんで、同じ職場で働いていた菅刈の方から、へき地の子ども達の事を聞き、何らかのお手伝いと、最初七百円の金額を同封菅刈分校に寄せてきたものです。それから三年間、毎月送金を行い文通も続け、今年に入ってから千円とその額も増し、現在もなお続けて行っている行為に感激した菅刈、田沢の学区民は、去る八月四日、山川さんを招き、日頃の感謝を表わす計画をたてました。

八月四日、山川さんは妹さんと菅刈分校へ米訪、その夜は「いいもち屋」さんへ宿をとり、子供たちと懇談会を行い、翌五日、菅刈

## 出稼組合の要請に応えて

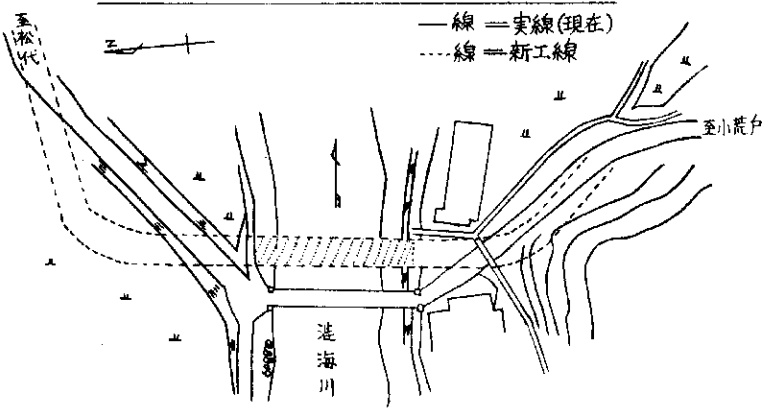
### 松宮克也氏来町

「ニュースの焦点」でお馴染みのNHKニュース解説委員の松宮克也氏が八月三十一日午後二時より県立松代高等学校体育館で、出稼者のために特別講演が開かれます。一般の皆様も、又とない機会です。多数御来場下さい。

尚、出稼組合願望の松宮氏の来町に併せ、本年度の出稼組合の定期総会を当日(八月三十一日午前九時)開催致しますから、組合員の皆様は是非御出席下さい。

松代町出稼組合事務局

小荒戸橋架換工事 平面図



## 高原に学習を続ける 若人達

▲ラジオ農校、後継者講座生▼  
町産業課で開設している、ラジオ農業学校、農業後継者講座では春先より年間計画をたて学習を続けているが、八月に入りそれぞれ一泊二日の日程で、笹ヶ峰牧場、戸隠高原へキャンプ村を開設、暑さの中から涼風を求めて学習の場を移しました。  
まず七月二十九日、三十日の両



## 部落公民館めぐり

(三)

### 儀明部落公民館の巻

早くから活発な活動状態で知られたこの部落の公民館は、部落事務所を兼ねて、分校のある平台に建てられている。

建物よりもその活動内容を充実することを目的としているこの部落では常にこの建物と分校の協力を得つゝ、より高い効果を考え、積極的な公民教育に取り組んでいる。世帯数九十戸のこの部落では、すべてがこの建物を利用してという訳ではないが、階上四十畳、階下十八畳と集会には事をかゝない大きさをもっている。

年間約五万円の運営費は殆んど

日にわたりラジオ農業学校生(約六十名)が笹ヶ峰牧場へテントを張り、翌朝火打山登山を行い、帰省しました。この間、夜は話し合いの会をもち、今までの学習の反省やら今後の仲間づくりを誓い合うなど、若者の鋭気を高原に発揮しました。

また八月五日、六日の両日には農業後継者生(約百十名)が長野県戸隠高原でキャンプ場を開設、晴れきった夏空の下で受講生同志の交換会がなされ、バレーボールフオークダンスに大いに仲間づく

## 笑顔の中にも真険で：

### 第一回家庭の日大会開かる

町青少年問題協議会主催の、第一回「家庭の日」大会が松代中学校を会場に、八月四日盛大に行なわれました。

この日参集した人は約二百名、町内PTA、民生委員、家庭教育学級生等で、午後の強い日差しを受けた会場では、両側に展示されたパネルに見入る人の真険な姿が随所にみられました。パネルは、家庭内における子どもへのしつけを中心に絵ときされたもので、解りやすく説明されたものでした。行事は一時半より行われ、記念

りの場を求め、又お互いの考え方や問題点が各テントとも活発になされました。翌六日には長野から山を越え大町市に出、北アルプスの山々をバスの窓越しに見ながら姫川狭谷をくだって帰途に着くなど有意義な二日間を過ごしました。尚これには、それぞれ松之山町の生徒も参加し、真険な中にも楽しい仲間づくりがなされ、その効果をあげました。

今後これ等の生徒は更に学習を続け、農村青年としての自覚と研修を深めていくことでしょう。

講演として県社会福祉講師団の橋本礼一郎先生が「家庭と子どものしつけ」と題されて約一時間半、家庭教育のポイントをお話し下さいました。終ってから呼び物のクイズ大会が催され、多数の賞品が用意されるなど、楽しい半日を過ごしました。

本来ならば第三日曜が家庭の日ですが、八月はいろ／＼な行事が予定されている関係上、第一日曜に計画されたものです。町内では初めての試みでしたのでその行事の成功は関係者を喜ばせました。尚これを期会に「家庭の日」をみながら実行するよう、係では呼びかけています。

クラブを作り、常に連絡をとりつつ、生活問題を中心に学習を続けている。

最近これら三者が合同の話し合いの会を持ち、老人の立場、婦人の立場、青年の立場から活発な意見をぶつけ合い、部落づくりへの真険な歩みを見せていた。

又最近は一級成人者は「ここにこ会」を結成、他人に対して、家庭の中で、常に笑顔でとの主旨のもと学習グループを作り、部落作りへふみ出した事は大いに注目されるのである。

こゝにおいて、部落全員が、子ども会から老人クラブまでが学習の場を持ち、それぞれ活発な動きを示している現状は高く評価されているところである。

部落費によりまかなわれ、最少の予算で最大の活動を考えている。この公民館は全村学習を目標に、先ず町内第一号の老人クラブは、たゞ仲間づくりという段階から進んで部落における老人の果す役割へと、その学習内容をかえ、自身自身の問題を更に追求しつゝ他団体との連絡提携を図り、年間学習計画に基づいてすばらしい活躍をみせている。

又青年団も、今年度はやゝもすると減少していく青少年層が叫ばれる現状の中でその会員数を増し意欲的な活動を青年学級を通し身につけている。部落への働きかけ部落での青年の位置づけ、その役割等、懸命な努力を続けている。婦人会活動は早くから学習形態を真険に取上げ、年令別の学習グ

# 農協合併五原則が決定

農協の合併については、一町村一農協、政治と経済を一つにし、より良い組合員への奉仕のために昭和三十八年より前後十六回に亘りいろいろと協議されてきました。が、この程協議会での基本的な了解事項が決定されましたので去る七月三十一日各農協の役員全員のお集りを戴き承認を得ましたのでお知らせ致します。

は三農協が善意を持って話し合い五原則を基としてきめられて行きます。猶合併に対する五原則は次のとおりであります。

## 合併五原則

1. 合併の時期  
昭和四十四年四月一日発足
2. 本所、支所の位置  
今の型を崩さないで、本所を
3. 職員  
現員、現給とし、企画管理部門は一ヶ所に集める。
4. 事業  
現在各農協で行っている全事業を継承し、組合員に不便をかけること。
5. 資産  
昭和四十四年三月三十一日決算により合併する。

松代、山平・奴奈川を支所とする。

# 管内農協概況

科 目	松代農協	山平農協	奴奈川農協
1. 組合員数	1,275	558	682
正組員	1,068	530	678
準組合員	207	28	4
2. 農家数	969	523	426
3. 職員数	26	12	9
農指導員	19	11	7
事務業丁	2	1	1
4. 資本	16,038	10,032	7,799
備立金	11,126	7,513	5,585
資金	3,400	1,291	651
特別	100	82	37
資出法特剩	1,412	1,146	1,526
5. 主要勘定			
貯蓄金	395,251	185,347	138,626
貸付金	407	316	325
共済額	49,410	20,540	21,166
契約額	50	39	49
購売品	1,095,340	472,980	340,660
販売品	1,130	904	799
	86,193	43,637	25,661
	88	83	60
	233,089	129,479	113,801
	240	247	267
6. 諸引当金			
貸倒引当金	1,206	458	410
減価償却引当金	1,206	458	454
退職給与引当金	11,113	3,586	2,331
価格変動準備金	11,113	3,601	2,331
	13,819	3,178	2,312
	13,819	2,957	2,821
	1,900	294	141
	1,900	—	141
7. 棚卸資産	31,729	4,916	2,358

## 灯

青年達の善意が嬉しかった

桐山の小山徳康君等に  
柏崎の一市民からのお便り

過日、町教育委員会宛に、大変貴町の青年の方々にお世話になりその親切が忘れられなく、感謝の気持ちを伝えてほしいと一通の便りがとどきました。その人は柏崎市大和町に住む横村昭市さんという方で、押さえ切れない感謝を訴えておられました。

やゝもすると批判的に見られがちな青年達が、人間的な考え方をしっかり身につけ、進んで実行していることに深い敬意を表すると共に、感謝の手紙を転記し皆様に披露いたします。

「唐突ですが昨七月二十六日、小生、柏崎花火大会の夜、砂浜の坂に自動車の車輪をふみはずし困却して居りましたところ、貴町民四氏の気持よい御手助けを賜り（砂浜の坂に一晚おくと何らかのはずみで転落して自動車を大破するやも知れず）感謝に堪えませんでした。自動車会社など方々に電話しましたのに柏崎祭りにて休んでいるところばかり、それに加えて今の若者達は大きい自我主義者が多く「オラ知らねえヨ」と言う方が多勢でありましたのに、貴町の教育行政の為か、本人達の善良さに打たれました。若い四人の住所を尋ねましたところ「イイデス」とすたすた行かれましたが、なお自動車で追いつけずシツコク尋ねましたので、桐山の小山徳康氏の

氏名だけがうかぐえました。あとの三氏の名前もと思いましたが、どうしてもうかぐえませんでした。「私たちが運動手だから、その気持がわかります。なんでもありません」と明るいい態度、マナーの良さ、すっかり感心しました。不良青少年の事故多い柏崎の砂浜での出来事でした。大変お手数ですが貴委員会を通じて感謝を申し上げて戴きたくお願い致します。本当に有難うございました。

尚教育委員会で調べたところ、他の三名は同じく桐山の寺崎正作さん、寺崎松太郎さん、寺崎武文さんでした。

町内のこの出来事は、近頃心暖まるお話しでした。